

令和6年度 看護師Ⅱ職能委員会 活動報告

■委員名

委員長： 於田里実

副委員長： 岸元知加子

委員： 大垣智子 津村輝恵 吉本育江 嶋田加寿代 加藤美奈子 坂田みどり
 構恵子 和田豊子 井上阿貴子 滝本陽子

■活動目標

1. 看護職の連携で地域包括ケアを充実させる
2. 職能Ⅱ領域看護師のマネジメント力、実践力向上を図る

■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和6年4月13日	8名	・令和5年度活動報告、令和6年度活動計画について ・令和5年度研修、交流会の企画書検討、作成
2	令和6年7月6日	10名	・令和6年度看護師職能Ⅱ委員会実施予定 ・令和6年度活動日程確認等
3	令和6年8月3日	8名	・研修会及び交流会の進行、役割分担について ・第1回全国職能委員会報告、「看護の将来ビジョン」意見交換
4	令和6年8月31日	0名	・保健師助産師看護師合同交流会 「看護職のためのアンガーマネジメント」台風にて中止
5	令和6年9月14日	8名	・看護師職能ⅠⅡ交流会スケジュール、役割等の確認 ・看護師職能ⅠⅡ交流会開催
6	令和6年10月5日	11名	・9/14 看護師職能ⅠⅡ交流会の振り返り、評価について ・令和6年度事業報告書作成 ・理事会報告等
7	令和6年11月16日	8名	・看護師職能Ⅱ委員会交流会スケジュール、役割分担確認、 「地域におけるケアリングの実際」交流会開催
8	令和6年12月14日	9名	・11/16 看護師職能Ⅱ委員会交流会の振り返りと評価について ・令和7年度目標と活動内容の検討、計画書作成
9	令和7年1月18日	8名	・令和7年度保健師助産師看護師職能交流会の検討 (目的、テーマ、内容等について)
10	令和7年2月15日	8名	・次年度の活動計画予定について再確認 ・令和6年度活動報告書の内容について再確認
11	令和7年3月15日	6名	・3月7日実施全国職能委員長会報告 ・令和6年度看護師職能Ⅱ委員会活動報告（再検討）等

■活動の内容	1. 保健師助産師看護師合同職能集会 日 時：令和6年6月20日 9:30～12:00 内 容：令和5年度看護師職能Ⅱ委員会活動報告 令和6年度看護師職能Ⅱ委員会活動計画 基調講演 テーマ：中堅看護師を支える・育て“コツ”と効果的な関わり方 講 師：愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 助教 内藤知佐子 氏 2. 保健師助産師看護師合同交流会 日 時：令和6年8月31日 13:30～16:00 内 容：「看護職のためのアンガーマネジメント」 ～私たちの感情コントロールで職場を変えよう～ 講 師：横浜市立大学医学部看護学科 講師 田辺有理子 氏 ※台風の為中止 3. 看護師職能ⅠⅡ合同交流会 日 時：令和6年 9月14日 13:30～16:30 内 容：「看看連携推進に向けた看護師の役割」 ～病院と在宅の看護師が繋がる体制づくりとは～ 講 演：木村病院 看護部長 成定啓子 氏他 4. 看護師職能Ⅱ委員会交流会 日 時：令和6年11月 16日 13:30～16:00 内 容：「地域におけるケアリングの実践」 ～私の看護の存在意義～ 講 師：トータルライフケアプロモーション 代表 青木菜穂子 氏
■活動の評価	1. <u>看護職の連携で地域包括ケアシステムを充実させる。</u> 看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会は、「看看連携推進に向けた看護師の役割」～病院と在宅の看護師が繋がる体制づくりとは～をテーマとし実施した。まず、地域包括ケアシステムの現状について学習した上で、病院が行っている具体的な地域活動、入院時からの退院支援、管理者が参加する看看連携研修の実際等について紹介をいただき、グループワークを行った。結果、アンケートでは「病棟看護師、地域の看護師は、在宅支援者と共に利用者の生活を支える為の連携を常に意識する必要がある」「地域の様々な現場で働く看護師と交流し、どんな連携やフィードバックが必要なのかを考える機会になった」等、95%が今後活用できるとされ、満足度の高い交流会となった。オンラインでのグループワークについては、Zoomや携帯の不具合、ファシリテーター不在による戸惑い等の意見もあったが「他職場の看護師と交流でき、研修の内容や業務等についての意見交換もでき有意義な研修だった」等、オンラインでのグループワークも交流の効果が得られていた。看看連携は「地域の看護師同士が、対象者の生活を支える為に、同じ目標を持って、信頼しあい、対等の立場で協働すること」とされている。今後も合同での交流会や研修会を実施し、看護がつながり相互理解できる機会を増加させる必要がある。 2. <u>職能Ⅱ領域看護師のマネジメント力、実践力向上を図る。</u> 看護師職能Ⅱ委員会「地域で働く看護職交流会」では、テーマを地域におけるケアリングの実践～私の看護の存在意義とは～とし、主に多職種チームにおける看護師のマネジメント力向上を目的として実施した。内容はそれぞれの現場で「どういう看護が求められるのか」「介護職者との連携の在り方」「医師との連携の在り方」また、現場で「してはならないこと」「しなければならないこと」について具体的な説明があった。特に「介護職との連携の在り方」では、協働場面において介護職が報告してよかったと思えるような対応を行うと共に、日頃からの感謝やコミュニケーションを大切にすることが大切である。多職種チームでの看護師はこれらに注意しながら関わることで、マネジメント力が向上し多職種との協働がスムーズになる可能性が高い。看護の存在意義に関しては看護の原点であるナイチンゲールやヘンダーソンの「看護とは」を大切に、パーパ

	ス「目的・意図・意思」を持った看護実践で、現場における看護の存在を明確にしてい く必要がある。後半のグループワークでは事前アンケートにあった「看護を行う上での 悩み・困りごと・ジレンマ」等について、講師より現場経験を含めた熱心なアドバイ スを受けることができた。ネガティブ傾向にある業務に満足感ややりがいを持つ為には、 ①完璧を求めない②自信を持つ③仕事にやりがいを持つ④ストレスをためない等が大切 である。そして何よりもマネジメント力や実践力を向上させる為には「マネジャーの 9 つの能力」を認識した現場での対応力向上と学習の継続が重要である。
■今後の課題	・ 職能Ⅱ領域の魅力を伝えられる広報活動 ・ 施設等、地域の看護職員へ情報共有方法の検討
■看護協会への 提言・要望	・ 職能Ⅱ領域看護師に広く研修案内が届くよう、兵庫県担当部署からの配信継続